

付録4 処理結果電文(INQ型電文/EXZ型電文/EXC型電文)の宛先管理の具体例

1. データ送受信処理方式ごとの宛先管理のパターンについて

NACCSでは、利用者のデータ送受信処理方式に応じた宛先管理の設定を行うことができる。付表4-1にデータ送受信処理方式ごとの宛先管理のパターンを示す。

処理結果電文(帳票)を特定の宛先に出力する場合は、出力情報コード単位に、下表に記述した宛先へ振り分けることができる。全ての処理結果電文(帳票)を特定の宛先に出力したい場合は、出力情報コードにバスケットコード「999999」を指定する。

なお、入力元がメール処理方式、かつ、入力者向けの帳票電文(INQ型/EXZ型)の場合で、全ての帳票電文を特定の宛先(パッケージソフトに限る)に出力したい場合は、出力情報コードにバスケットコード「888888」を指定する。

また、「出力パターン」欄に記入されている、付図4-1～付図4-7に宛先管理のパターンごとの設定例を示す。

付表4-1 データ送受信処理方式ごとの宛先管理のパターン

データ送受信処理方式	利用者システム形態	シングルサインオン	出力パターン				許可通知二重出力(注1)	
			INQ型	EXZ型	EXC型(注3)			
					送信先種別			
					利用者向け(QEX)	論理端末向け(QST)		メールボックス向け(MAIL)
インタラクティブ処理方式	パッケージソフト(インタラクティブ) / パッケージソフト(netNACCS)	有	自端末(EXZ型の場合は当初業務実施端末)に出力されるため宛先を設定する必要は無い	出力先利用者コード/出力先システム形態 [付図4-1]	出力端末名 [付図4-2]			
	SMTP双方向(ゲートウェイコンピュータ) / netAPI(ゲートウェイコンピュータ)			出力先利用者コード/出力先システム形態 [付図4-3]	出力端末名/出力先利用者コード/出力先システム形態 [付図4-4]		[付図4-5](注2)	
メール処理方式	ゲートウェイコンピュータ	有				メールボックスID/サーバ種別 [付図4-7]	付図4-5に同じ	
		無	メールボックスID/出力端末名(注4)/サーバ種別 [付図4-6-1] [付図4-6-2]					

(注1) インタラクティブ処理方式(SMTP双方向) / インタラクティブ処理方式(netAPI) / メール処理方式(ゲートウェイコンピュータ)利用者の場合のみ、二重出力が可能である。

(注2) 許可通知二重出力の場合の設定項目についてはそれぞれの付図を参照すること。

(注3) WebNACCS処理方式のみを利用する利用者へのEXC電文出力は業務処理にてエラーとする。

(注4) 帳票電文の場合のみ、出力端末名(パッケージソフトに限る)の指定が可能である。

パターンごとの設定項目の詳細については、オンラインメンテナンス業務の「業務仕様書」を参照すること。

① サーバ種別は、処理結果電文（帳票）の宛先のサーバを決定するために使用する。以下のいずれかを設定する。

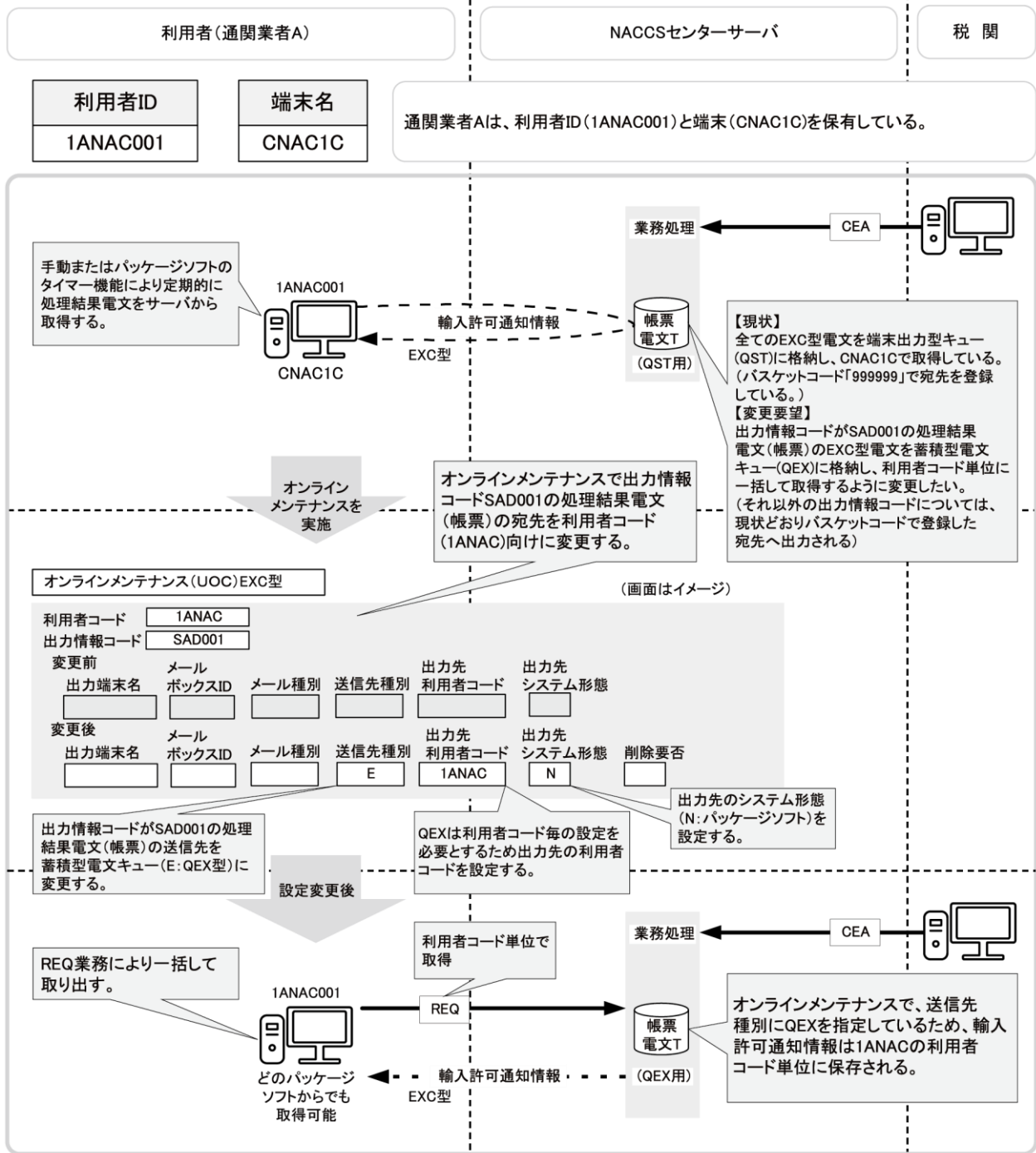
M:メール、E:EDIFACT（注5）、I:インタラクティブ（パッケージソフト）

① 出力先システム形態は、処理結果電文（帳票）を出力する宛先を決定するために使用する。以下のいずれかを設定する。

Y:SMTP双方向、N:パッケージソフト、V:netAPI

（注5）EDIFACTは対象出力情報コードが限定されているため、出力情報コードにバスケットコード「999999」を指定する場合、サーバ種別にはMを設定すること。（EDIFACTの場合は個別の出力情報コードごとに宛先管理設定を行うこと）

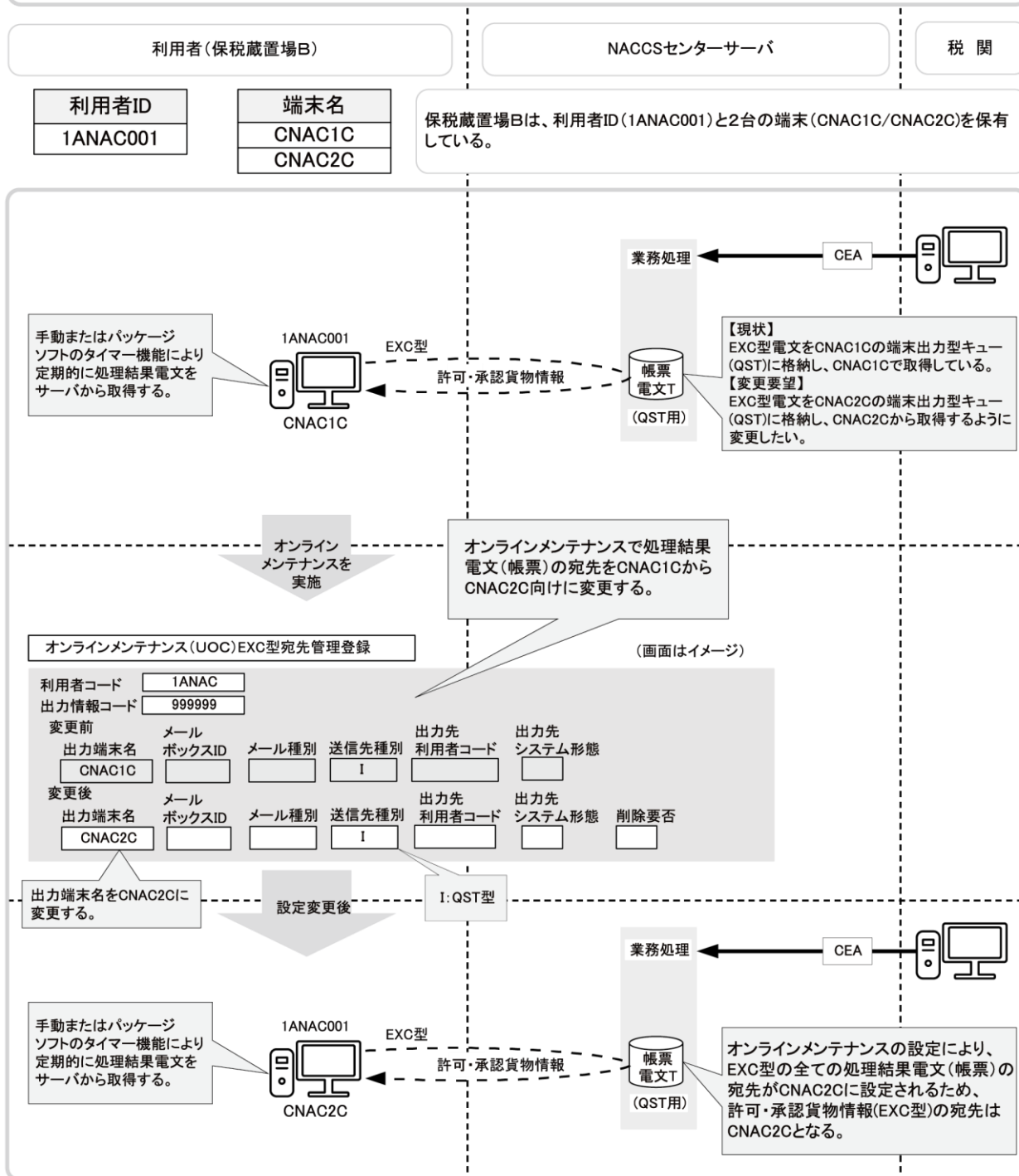
処理結果電文(帳票)の宛先を論理端末向けから利用者コード向けに変更する設定例



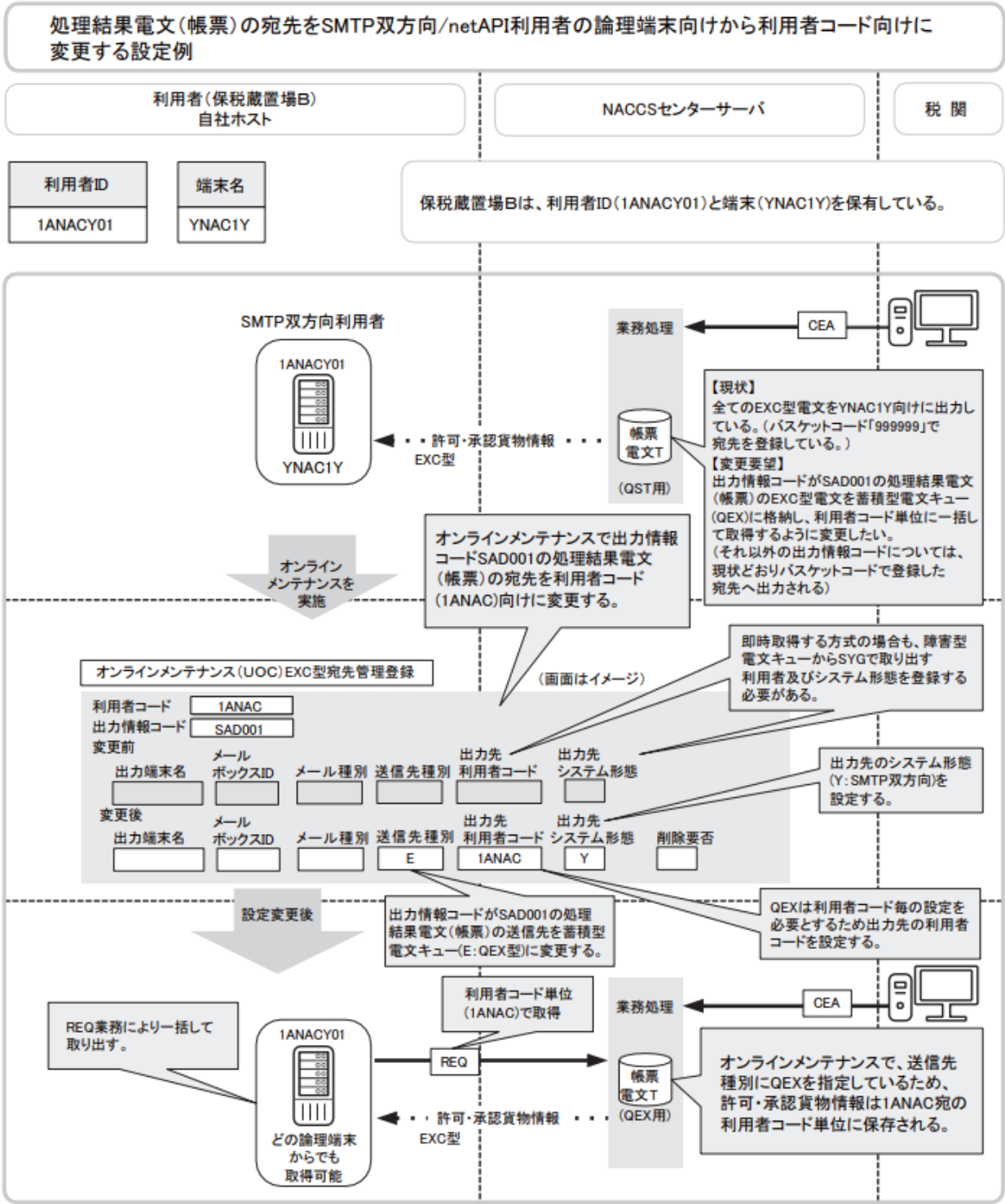
付図 4-1 EXC 型の情報の宛先を利用者コード単位にする設定例

①オンラインメンテナンス業務で登録した出力先の利用者コードと一致する利用者コードであり、かつ、システム形態(SMTP、パッケージソフト)が一致する利用者IDからのみREQ業務で処理結果電文(帳票)を取り出すことができる。

処理結果電文(帳票)の宛先を特定の論理端末から別の論理端末に変更する設定例



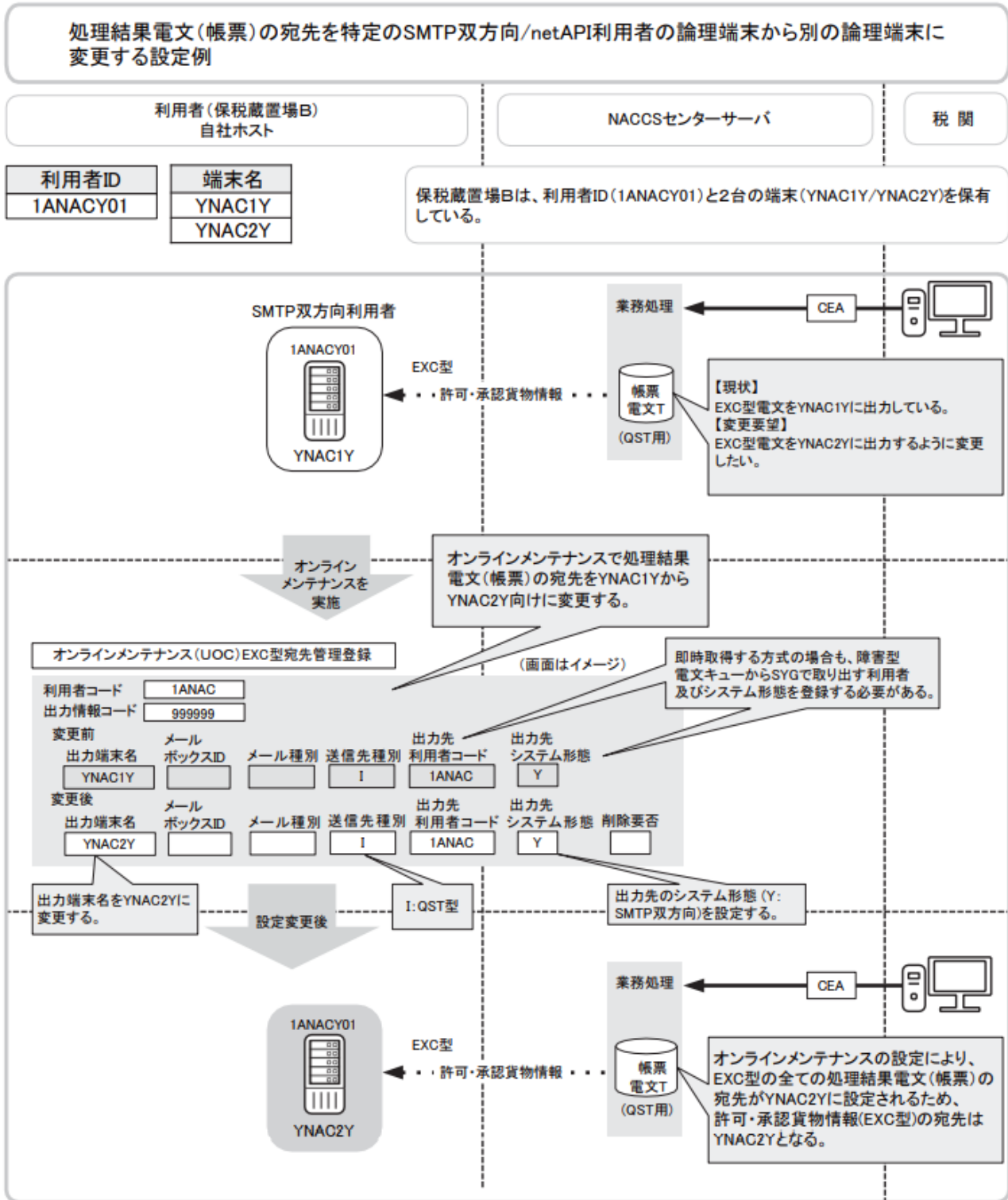
付図 4-2 EXC 型の情報の宛先を特定の端末にする設定例



付図 4-3 EXC 型の情報の宛先をインタラクティブ処理方式 (SMTP 双方向) 利用者単位にする設定

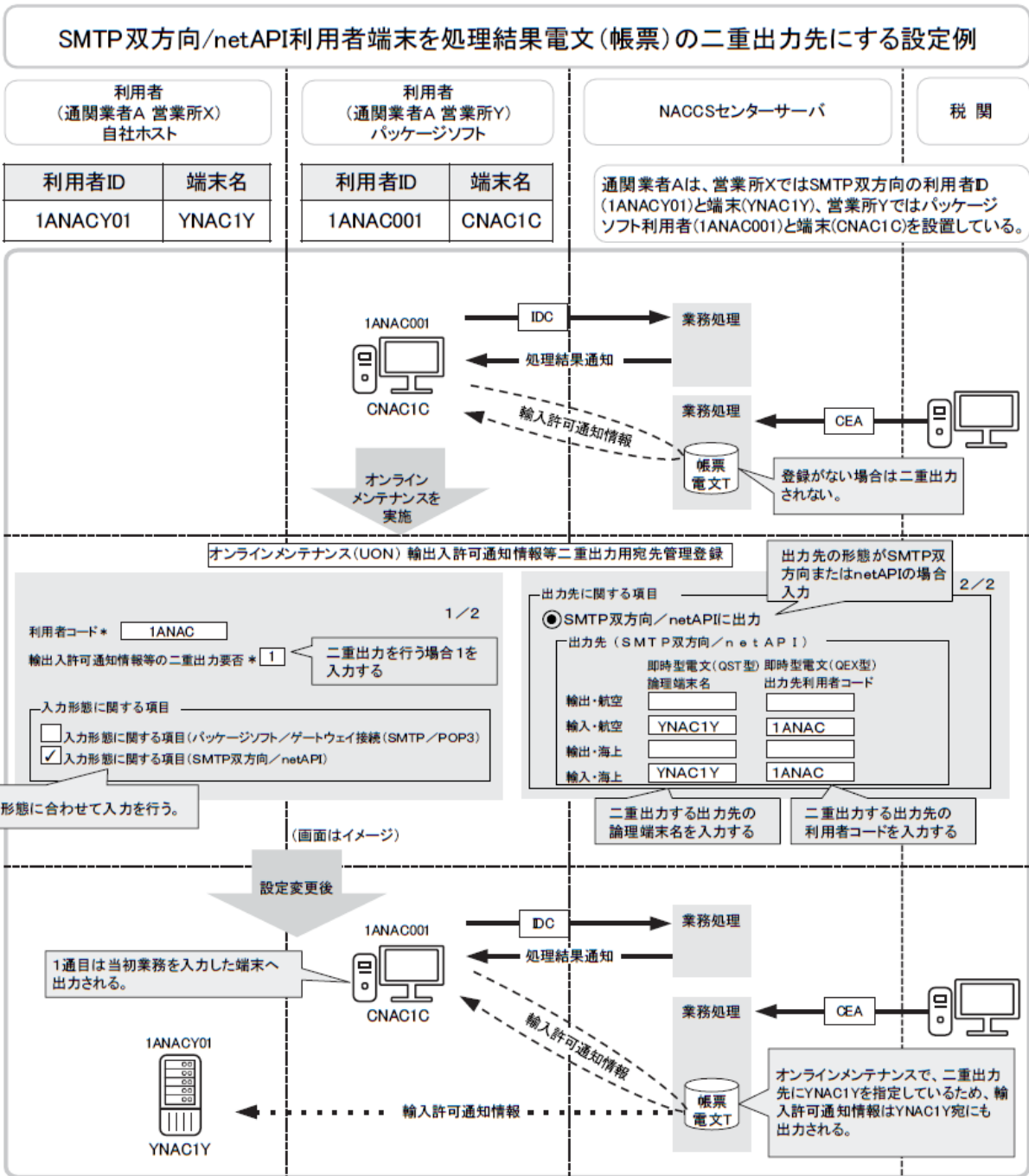
①出力先利用者コードに登録した利用者コードと一致する利用者コードであり、かつ、出力先システム形態(SMTP, パッケージソフト)が一致する利用者IDからのみREQ業務で処理結果電文(帳票)を取り出すことができる。

(注) netAPI接続の場合、利用者ID1ANACY01を1ANACV0A、端末名YNAC1YをV1000Vとして読む。



付図 4-4 EXC 型の情報の宛先をインタラクティブ処理方式 (SMTP 双方向) 利用者の特定の端末にする設定例

(注) netAPI接続の場合、利用者ID1ANACY01を1ANACV0A、端末名YNAC1YをV1000V、YNAC2YをV1001Vとして読む。

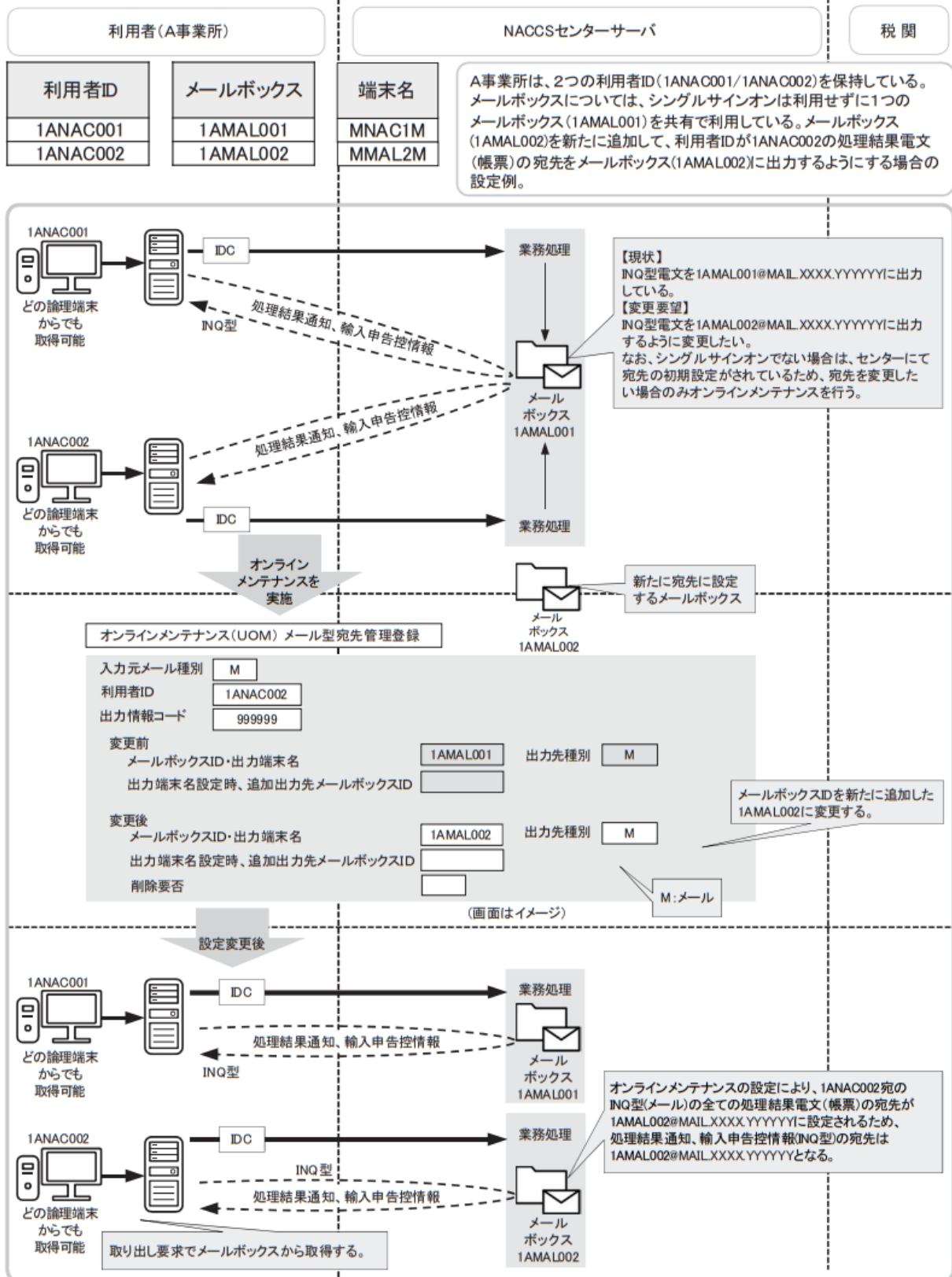


付図 4-5 二重出力する情報の宛先をインタラクティブ処理方式 (SMTP 双方向) 利用者の端末にする設定例

(注) netAPI接続の場合、利用者ID1ANACY01を1ANACV0A、端末名YNAC1YをV1000Vとして読む。

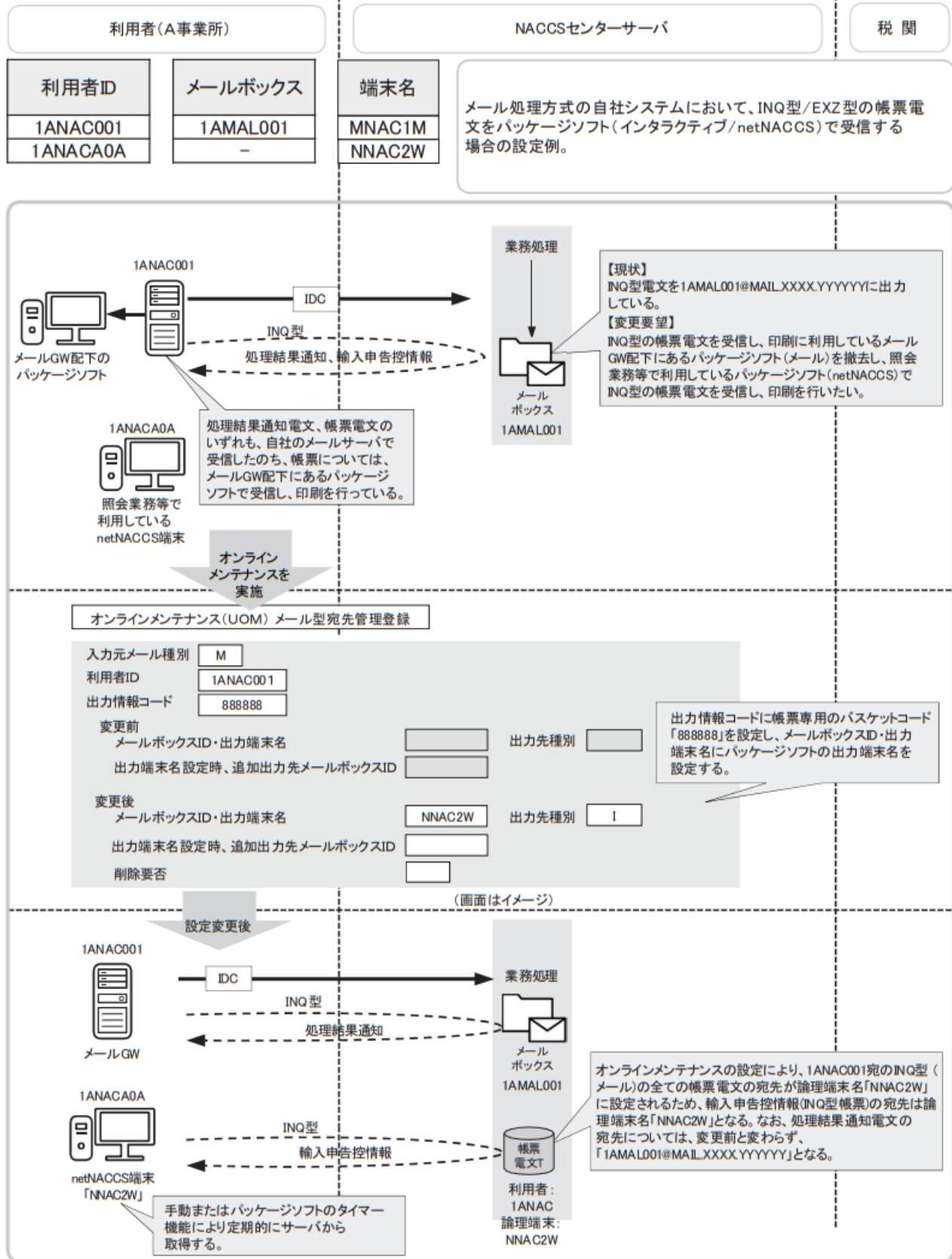
①二重出力の宛先については、特定の端末、利用者コード及びメールアドレス宛に設定することが可能である。

シングルサインオンでない場合で、メールボックスを新たに追加して、処理結果電文(帳票)(INQ型)の宛先を新たに追加したメールボックスに変更する場合の設定例



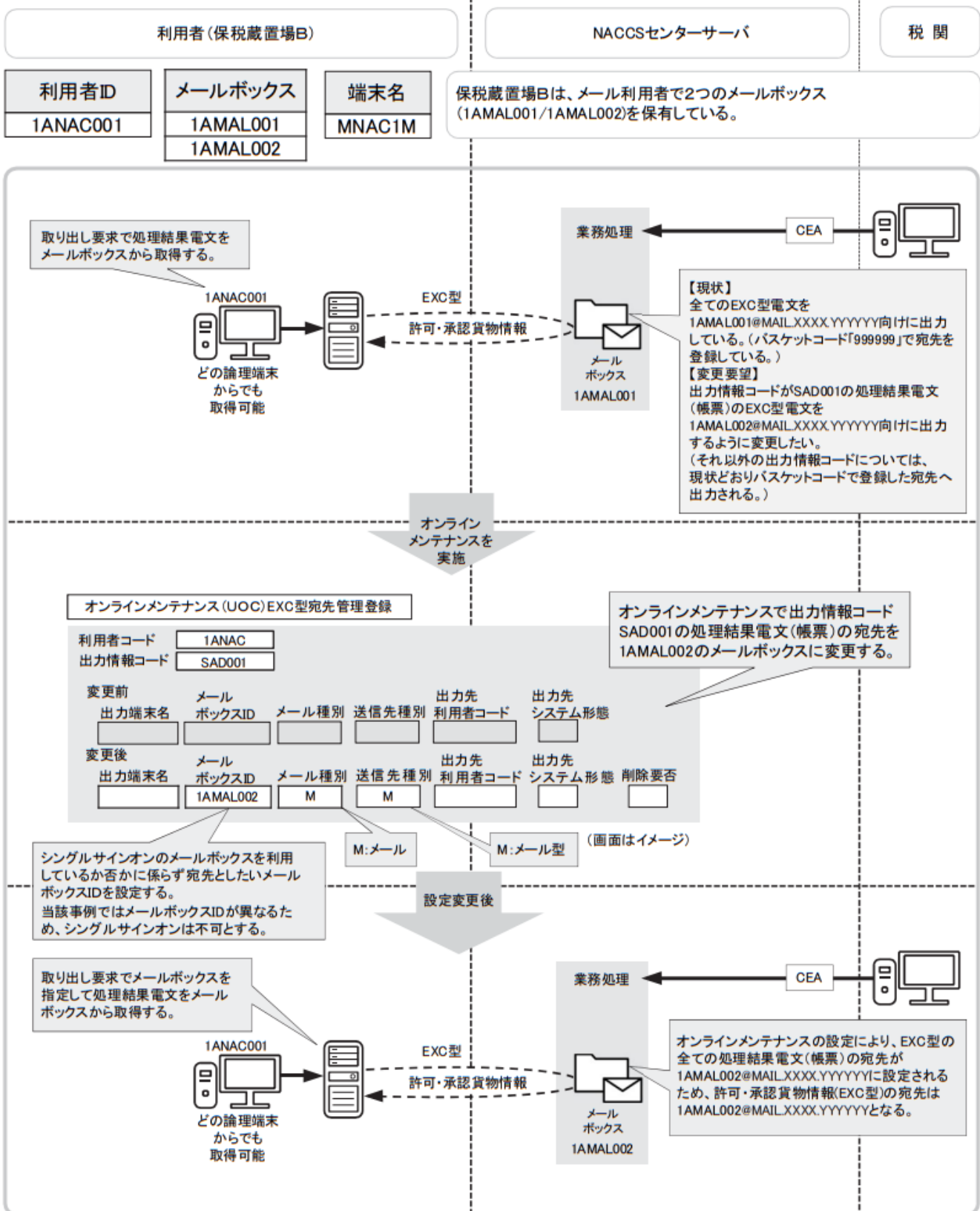
付図 4-6-1 メール処理方式(シングルサインオンでない場合)におけるINQ型の宛先管理の設定例

入力元がメール処理方式である場合に、帳票電文(INQ型/EXZ型)の宛先をNACCSパッケージソフトに変更する場合の設定例



付図 4-6-2 メール処理方式における INQ 型の宛先管理の設定例

処理結果電文(帳票)の宛先を特定のメールボックスから別のメールボックスに変更する設定例



付図 4-7 EXC 型の情報の宛先をメールボックスにする設定例